



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:<http://www.omachi-sanpaku.com>
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

6月号

第61巻 第5号
2016年

無料
Free

もくじ

| | |
|--|--------|
| 今月の一枚 | 1ページ |
| ・講演会「山博を通して地域資源の再発見 一友の会が支える博物館事業からー」 | |
| 付属園だより | 2~3ページ |
| ・山岳博物館におけるライチョウ類飼育の取り組み | |
| イベントのご案内 | 4ページ |
| ・企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里 氷河への道のり」 | |



博物館施設案内
はこちら



講演会「山博を通して地域資源の再発見 ー友の会が支える博物館事業からー」

千葉 悟志

大町市は、平成27年度に信州大学と定住促進に向けた共同研究を実施しました。

この度、「山博を通して地域資源の再発見ー友の会が支える博物館事業からー」の研究を担当された麻田玲さん（東京大学東洋文化研究所特任研究員・前信州大学研究員）から研究成果を報告いただきました。

この研究は、大町山岳博物館友の会会員（約270名からなる外郭団体で、市外6割・市内4割の会員構成）の平均会員継続年数が17年であることや、市外会員の多さに、市民が気づきにくい山博の魅力を再発見するヒントを得られるのではないかと考え、そこに大町市民の意識調査を交え、山博を「資源」として見出し、定住促進のきっかけにするというものです。ここで言う「資源」とは、人がそのモノをどう捉えるかによって変わる「働きかけの対象」と理解します。

会員および市民に実施したアンケート結果やインタビューにより、「会員は山博との物理的な距離よりも心理的な近さが強く働き、山博を貴重な『資源』として捉えているのに対し、市民は、物理的に身近であるが故に山博への魅力に気がつきにくい傾向が見られる」とのことでの、心理的な近さを増幅、またすぐるような手法によって遠方にいても山博ファンを増やせる可能性を示唆するものでした。山の日制定を追い風に、山博の認知度を高めることで、さらに効果を得ることができるであろうとの提言をしていただきました。

同時にこれは、大町市に対する提言に置き換えることができます。定住促進の方策に即効性はないのかもしれません、講演会参加者の半数近くが市外からであったことは、この度の研究結果が如実に示されているように思えました。
(市立大町山岳博物館 学芸員)

付属園だより

山岳博物館におけるライチョウ類飼育の取り組み

宮野 典夫

◇はじめに

市立大町山岳博物館（以下山岳博物館）では、ニホンライチョウ（以下ライチョウ）の生態調査を昭和36（1961）年から開始しましたが、現地では把握できない生理や病理について、飼育をして究明しようというねらいと、万が一に野生での個体が減少した時には復帰に役立てるための飼育技術を獲得する目的で、昭和38（1963）年から、北アルプスに生息しているライチョウを付属園で飼育してきました。



昭和37年 冬のライチョウ調査（爺ヶ岳）



昭和38年 ライチョウ飼育開始（チャボによる孵化）



昭和39年 移動ケージによる保護（爺ヶ岳）



昭和51年 飼育下でメスが抱卵



昭和51年 飼育下でメスが育雛

平成16（2004）年2月、オスのライチョウが死亡し、当初の目的が充分に達成できないまま、山岳博物館での飼育が途絶えることとなりました。



平成16年まで飼育したオスのライチョウ

これらの評価を踏まえ、ライチョウ飼育の展望について大町市はライチョウ保護事業計画策定委員会を立ち上げ、有識者の議論を踏まえて「氷河期から生きるライチョウとともに - 大町市ライチョウ保護事業の計画策定のための提言 -」をまとめていただきましたが、この内容は大規模であることから計画を凍結して、国等の動向を見ながら再開の時期を検討することとなりました。

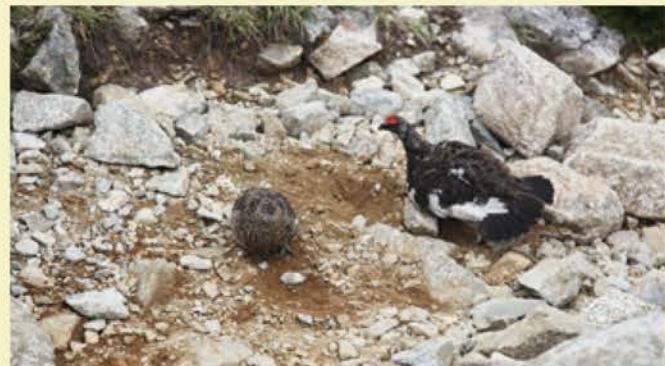
しかしながら、5世代までの世代交代ができたり、年間で約40羽の飼育をする年がありました。一方、感染症や盲腸の機能障害等が原因で死亡が見られたケースもありました。

◇生息域内の変化

昭和55（1980）年頃の野生ライチョウの生息数の推定は約3,000羽とされていました。ところが、平成12（2000）年頃には約1,700羽との報告がされています。特に南アルプス北部の白根三山一帯は著しい減少がみられているようです。

減少の原因については、キツネやテンなどの捕食者との関係、ニホンジカやニホンザルの高山への侵入などいくつかあげられていますが、明確な因果関係がまだはっきりしないため、減少要因の調査も継続して行われています。

山岳博物館が飼育を中断している時期に生息現地のライチョウに大きな変化がみられたことが推測されました。



ライチョウのメス（左）とオス（右） 平成26年7月 爺ヶ岳

◇国の方針

環境省は平成22（2010）年に生息域外モデル事業として、ライチョウの飼育下での増殖を想定した検討を始めました。

平成24（2012）年の環境省第4次レッドリストの見直しで、ライチョウを絶滅危惧II類から、近い将来野生での絶滅が高い種に類する絶滅危惧I B類にカテゴリーが引き上げられました。

これを受けた環境省はライチョウ保護増殖検討委員会を設け、「自然状態で安定的に存続できる状態とする」ことを目標とした計画を立てました。計画の中では、生息域内保全では減少要因の解明、ケージ内保護方法の技術確立、従来高山帯に生息していない野生動物等の侵入防止対策などが挙げられています。また、生息域外保全では、ライチョウの飼育・繁殖技術の確立、野生復帰の必要性検討などが盛り込まれています。その他に巡視や普及啓発、人材育成、実施体制の強化も含まれています。

◇近縁種スバルバルライチョウの飼育

東京都恩賜上野動物園では大町市がまとめた計画「氷河期から生きるライチョウとともに - 大町市ライチョウ保護事業の計画策定のための提言 -」を基にして、ノルウェーのトロムソ大学からスバルバルライチョウの種卵を入手して、平成20（2008）年から飼育を開始しました。また、富山市ファミリーパークも同じくトロムソ大学から種卵を導入して、平成22（2010）年には飼育を始めました。



ノルウェー、トロムソ大学でのスバルバルライチョウ飼育

いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、多摩動物公園、横浜市繁殖センターも、東京都恩賜上野動物園や富山市ファミリーパークで生まれた個体を移動するなどして飼育を始めましたが、各園の情報共有が必要となつたため、情報交換を組織的に進めるこにして、日本動物園水族館協会の生物多様性委員会内にライチョウプロジェクトチームを組織し、山岳博物館も加わり、平成26（2014）年2月に第1回の会議を大町市で開催しました。

その後、プロジェクトチームに那須どうぶつ王国、飯田動物園、横浜市動物園が加わり、現在では山岳博物館も含めて10園館で約90羽のスバルバルライチョウを飼育しています。

◇山岳博物館でのスバルバルライチョウ飼育の取り組み

平成27（2015）年に新しいライチョウ舎を付属園内に建設し、富山市ファミリーパークといしかわ動物園のご協力によりスバルバルライチョウの飼育を開始し、現在7羽（オス4羽・メス3羽）を飼育しています。その内容は「山と博物館」第61巻第1号・2号（2016年1月及び2月発行）に記載されていますので参考にしてください。



平成27年 山岳博物館でのスバルバルライチョウの孵卵（左）と育雛（右）



◇スバルバルライチョウの飼育で得ようとしていること

スバルバルライチョウの飼育で課題になっている点について研究会を設けて、各園館で共通の課題に取り組んだり、大学の研究機関と協同で研究を実施したりしています。具体的には飼育ハンドブックの作成、盲腸内の腸内細菌に関する研究、血糖値測定に関する研究、ライチョウ飼料開発基礎研究などです。これらの成果をライチョウの繁殖・飼育に役立てていく予定です。

◇ライチョウ飼育の再開

ライチョウの域外保全については、平成26（2014）年に環境省と日本動物園水族館協会が「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」を締結して、協力しながら進めることとなりました。

平成27（2015）年には北アルプス乗鞍岳において、産卵期に5個を採卵して、東京都恩賜上野動物園での孵卵で5羽



平成27年 乗鞍岳での営巣調査

が孵化して育雛をしましたが、約70日齢までにすべてが死んでしまいました。死因についてはいろいろな要素が複合的に関与していたようです。

一方、同じく乗鞍岳から抱卵期に5個を採卵して富山市ファミリーパークが孵卵・育雛を行いましたが、1個は初期の段階で個体発生が止まっていました。4羽が孵化しましたが、そのうち1羽が8日齢で死に、3羽が若鳥まで育ちました。この3羽はオスでした。

◇平成28（2016）年の方針

平成28（2016）年当初、飼育しているライチョウは富山市ファミリーパークのオス3羽だけなので、生息域外での繁殖ができない状況です。

平成28（2016）年2月に開催されたライチョウ保護増殖検討委員会等での意見を踏まえ、昨年度に引き続き、乗鞍岳から追加的なファウンダー（飼育下繁殖に供する創始個体）確保を行うことを5月12日に環境省が発表しました。

採卵は12個を目標にして、ファウンダーを受け入れる園館は3施設です。産卵期の4個は東京都恩賜上野動物園で、抱卵期の8個は富山市ファミリーパーク及び山岳博物館となりました。

◇山岳博物館でのライチョウの飼育に向けて

大町山岳博物館ではライチョウ飼育の準備を進めています。

現在、付属園で飼育中のスバルバルライチョウをライチョウ舎西棟に収容し、ライチョウの飼育施設としては東棟と中央棟とし、エアコン等機器のクリーニングや施設の清掃・消毒を行います。

また、飼料や照明、病気対策等については、昨年のスバルバルライチョウの飼育や、過去のライチョウ飼育での知見を活かした方法を検討しています。

予定では5月から6月にかけて乗鞍岳においてナワバリや巣の調査を行い、現地の状況を勘査して6月下旬か7月の上旬には抱卵期の卵8個を採卵して、そのうちの4個を山岳博物館のライチョウ舎の孵卵器で孵卵を開始します。孵化した後は育雛器での飼育に移行し、8月頃には廃温（親の腹下と同じ環境をなくすこと）して放飼場での平飼いに移行します。

孵卵、育雛等に関する病気対策など衛生管理上の都合から非公開で実施しますので、ご理解ください。なお、写真や動画での情報発信は随時させていただく予定です。



ニホンライチョウを飼育予定のライチョウ舎（右：東棟、左：中央棟）
(市立大町山岳博物館 指導員)

イベントのご案内

山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご観覧いただけます。）6月は18日（土）と19日（日）です。

企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里 氷河への道のり」



カクネ里は、鹿島槍ヶ岳北峰の北東側に位置する氷河遺跡と言わわれている谷です。

山岳博物館では、平成26年度から4つの研究機関による「カクネ里雪渓(氷河)学術調査団」を組織し、氷体移動の有無、気象観測などの総合的調査に取り組んできました。しかし、悪天候や入山経路の危険度増大などに阻まれ続け、ようやく昨年9月、10月に氷体に絞った現地調査を少数精銳の団員による調査を実施し、氷体の移動を観測することができました。

現在は、学会での発表や学術論文の作成を進めており、氷河であると公表できるのは、学術論文が受理された後となります。

今回、少しでも早く調査の様子や観測結果などを多くの皆さんにお伝えしたいと考え、急遽企画展を開催することとなりました。

企画展では、パネルや映像で調査の様子や氷河とはどんな物なのか。また、科学者の目を持って入山観察した先駆者であり、我々のバイブル的存在である「鳥瞰図譜=日本アルプス」を著した故五百澤智也氏のカクネ里に関する原画、原版写真なども初めて一般公開する予定です。

なお、調査団では気象観測装置の設置、岩石採取を行いうため今夏も挑みます。

- 主 催 市立大町山岳博物館
- 会 期 6月11日（土）～8月28日（日）
午前9時～午後5時
※入館は午後4時30分まで
※会期中の休館日 6月13日（月）・20日（月）・27日（月）。7・8月は無休
- 入館料 大人400円 高校生300円 小・中学生200円

関連催し

企画展ミュージアムトーク

- 日 時 平成28年6月11日（土）
午前10時30分～、午後1時30分～
平成28年7月10日（日）
午後4時00分～（報告会終了後）
平成28年8月11日（木・祝）
午前10時30分～、午後1時30分～

- 会 場 博物館 特別展示室

- 参加費 無料（ただし、入館料が必要となります。）
- 申し込み 不要（当日、時間までに会場へお越しください。）

カクネ里雪渓（氷河）学術調査団 報告会

—カクネ里雪渓調査フィールドワークと今後の展望

- 主催：カクネ里雪渓（氷河）学術調査団

- 共催：大町市・大町市教育委員会・信州大学・長野県環境保全研究所・富山県立山カルデラ砂防博物館

- 演者 飯田肇氏（富山県立山カルデラ砂防博物館）
福井幸太郎氏（富山県立山カルデラ砂防博物館）
鈴木啓助氏（信州大学山岳科学研究所）

- 日 時 平成28年7月10日（日）

- 午後1時30分～3時30分

- 会 場 サン・アルプス大町

- 参加費 無料

- 申し込み 不要（当日、時間までに会場へお越しください。）



編集・発行

大町山岳博物館
OMACHI ALPINE MUSEUM
—創立 1951 年—

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL: http://www.omachi-sanpaku.com

6月号

第 61 卷 第 5 号
2016 年

発行日 2016 (平成 28) 年 5 月 25 日

印 刷 有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL. 0261-22-3030 FAX. 0261-23-2010